

令 7 年度

藤沢林道災害復旧工事

設 計 図

図面枚数

表紙共 19枚

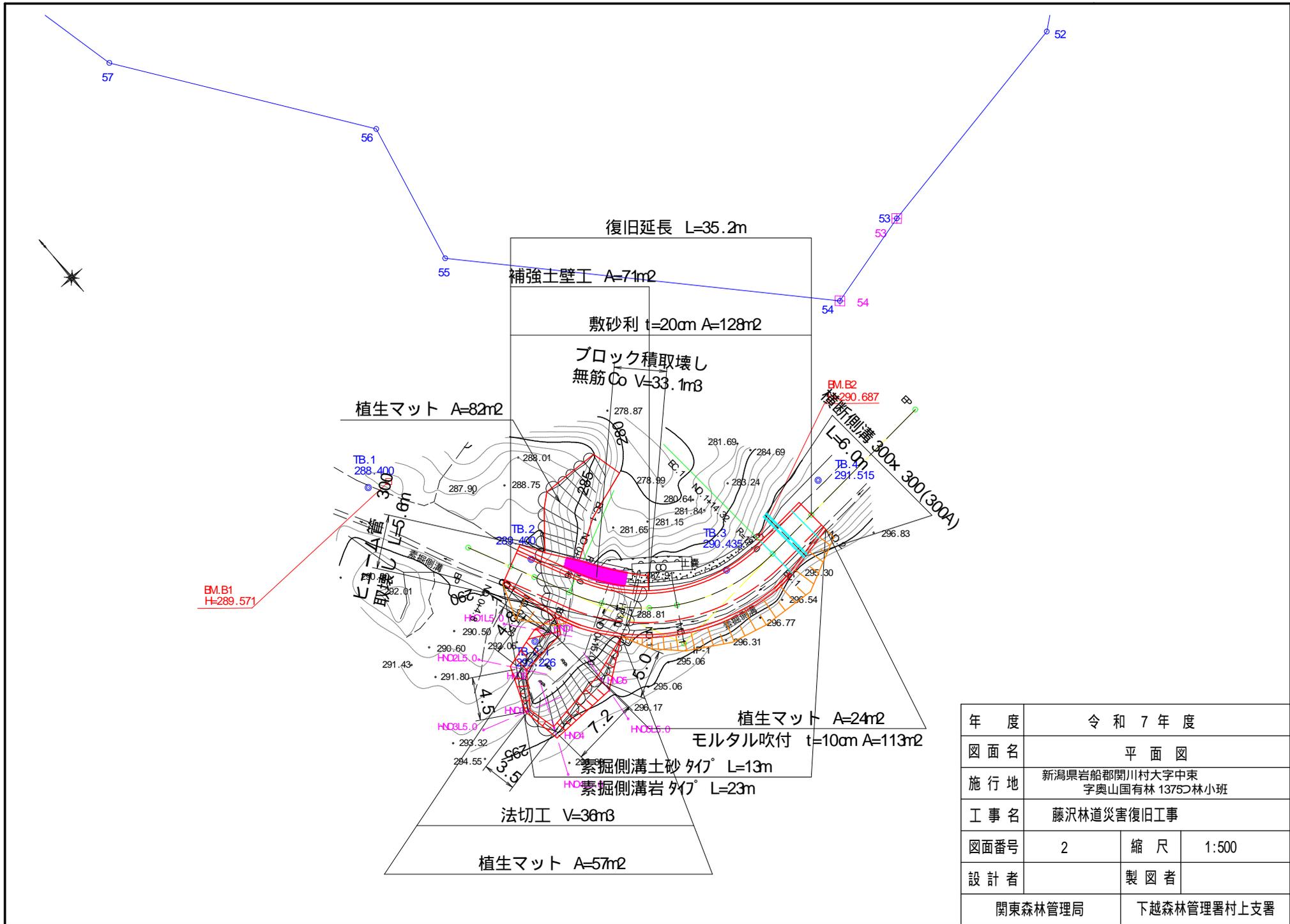
分 類	森林管理道		規 格	2 級 B
位 置	新潟県岩船郡関川村大字中束字奥山国有林 1375 つ林小班			
延 長	35.2 m		国 有 林 内	35.2 m
			国 有 林 外	- m
幅 員	3.6 m		最 小 半 径	- m
勾 配	最 急	平 均	設 計 荷 重	- t
	- %	- %		

下越森林管理署村上支署

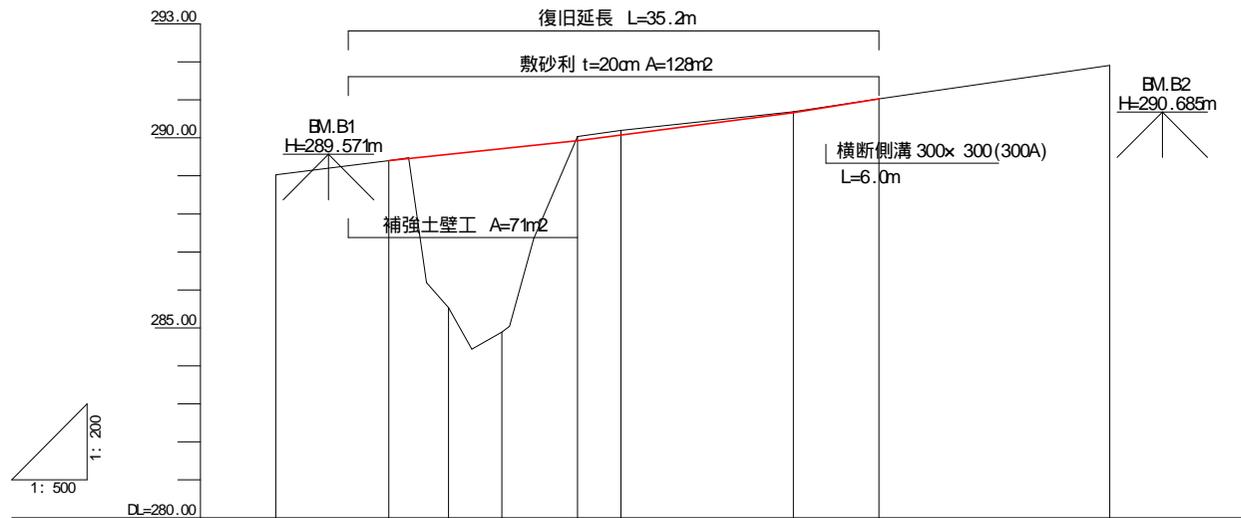


施工地

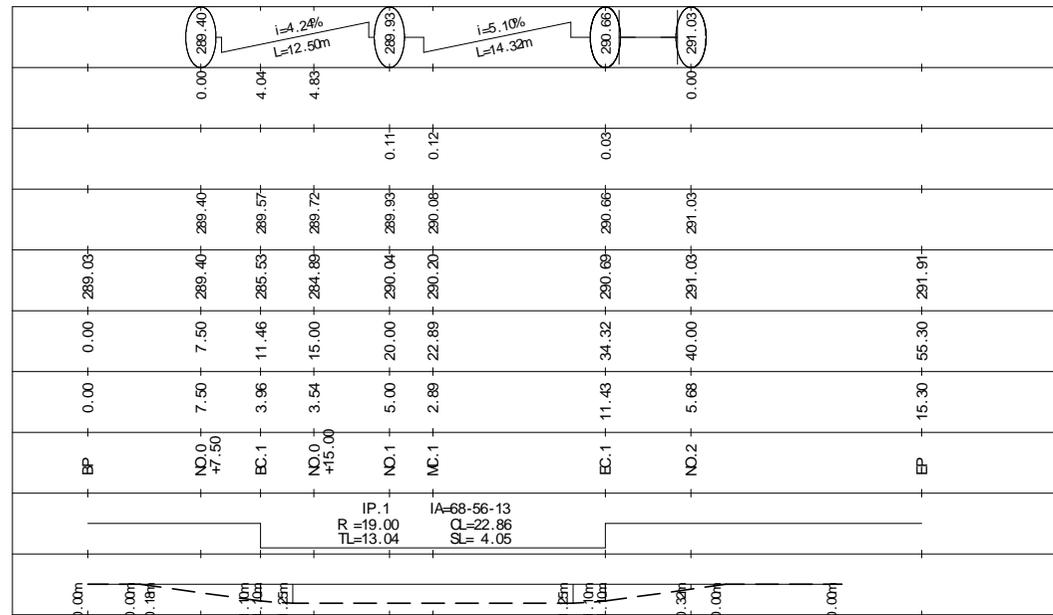
年度	令和 7 年度		
図面名	位置 図		
施行地	新潟県岩船郡関川村大字中束 字奥山国有林 1375ㇿ林小班		
工事名	藤沢林道災害復旧工事		
図面番号	1	縮尺	1: 20,000
設計者	製図者		
関東森林管理局	下越森林管理署村上支署		



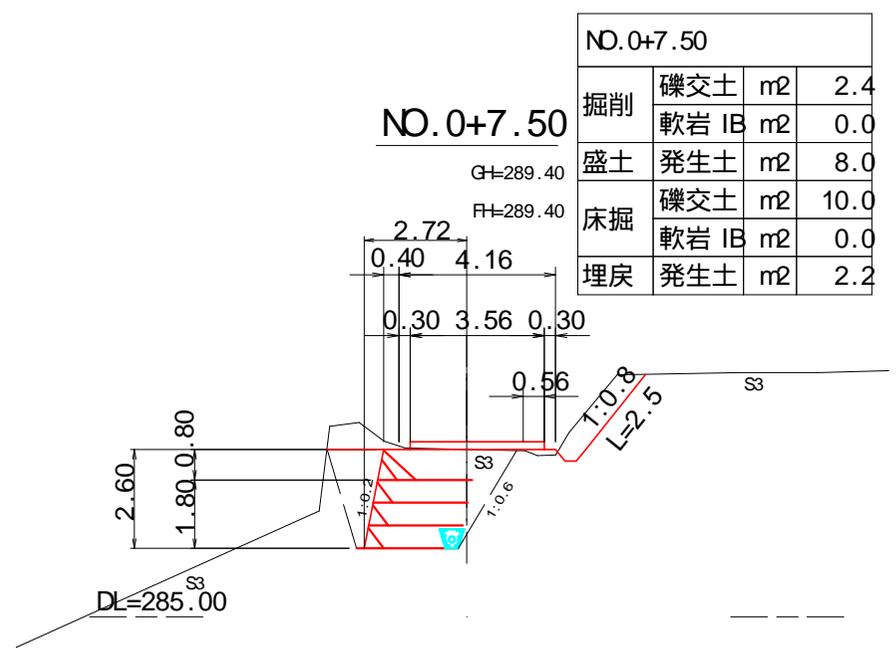
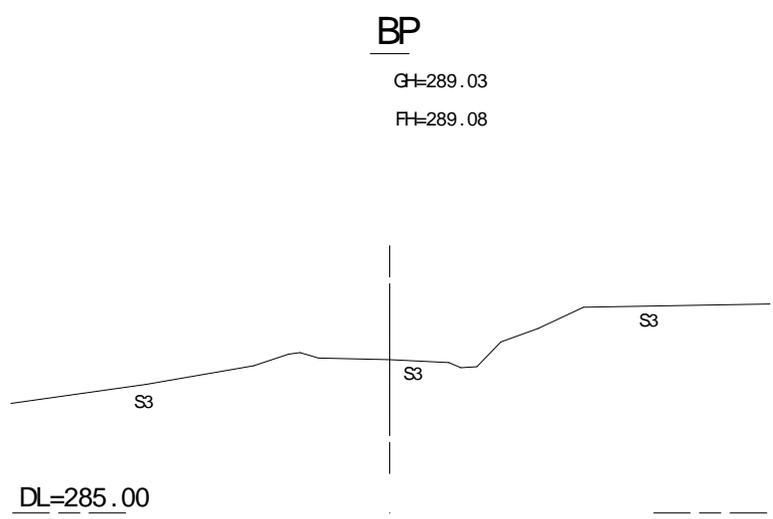
年度	令和 7 年度		
図面名	平面図		
施行地	新潟県岩船郡関川村大字中束 字奥山国有林 1375㊦林小班		
工事名	藤沢林道災害復旧工事		
図面番号	2	縮尺	1:500
設計者			製図者
関東森林管理局		下越森林管理署村上支署	



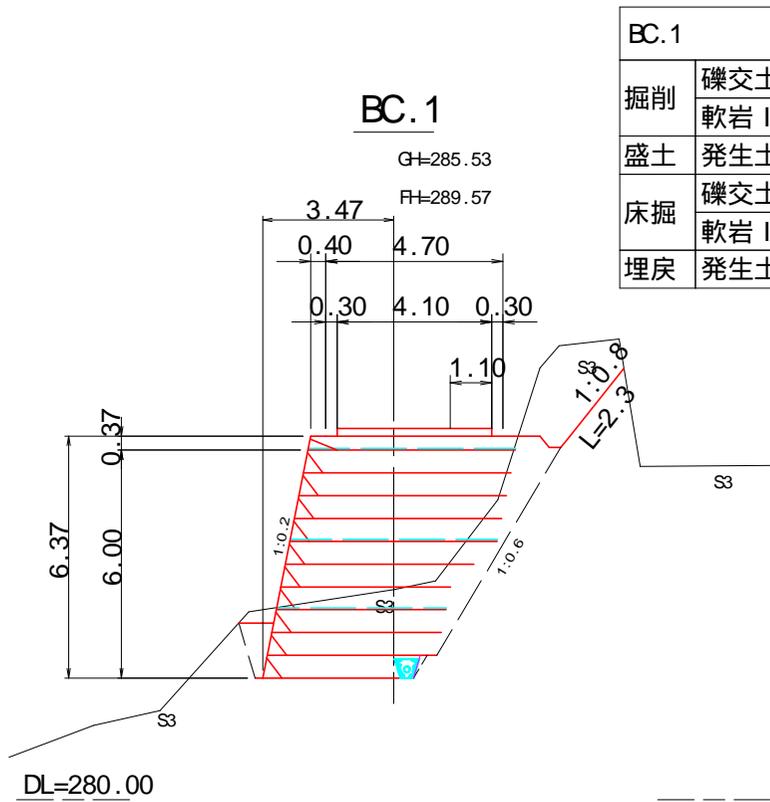
勾配
切土高
盛土高
計画高
地盤高
追加距離
単距離
測点
曲率図
拡幅



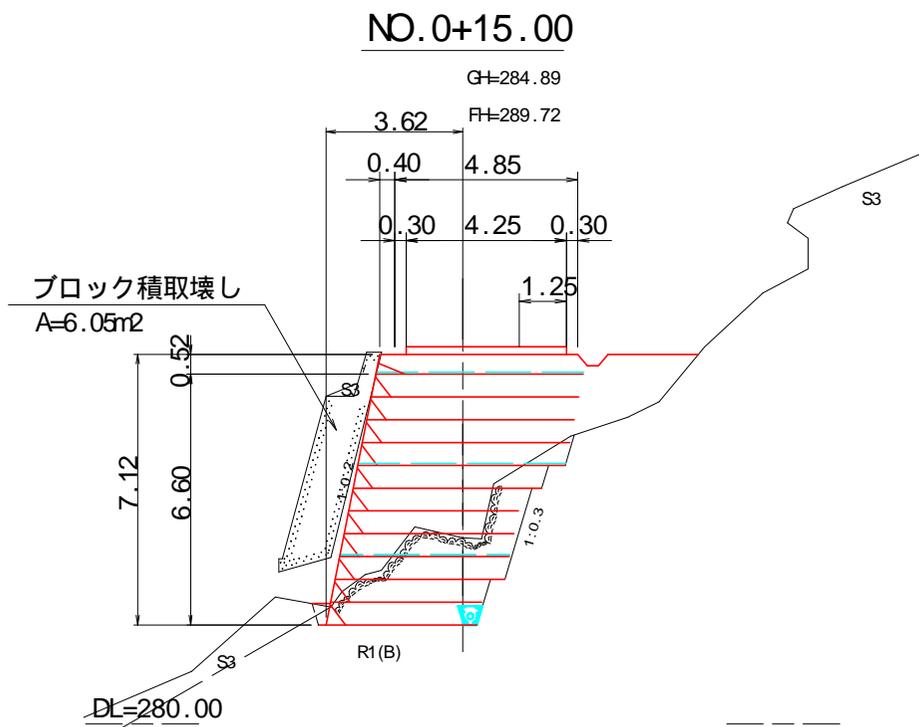
年度	令和7年度		
図面名	縦断面図		
施行地	新潟県岩船郡関川村大字中束 字奥山国有林1375㉾林小班		
工事名	藤沢林道災害復旧工事		
図面番号	3	縮尺	縦=1:500 横=1:200
関東森林管理局		下越森林管理署村上支署	



NO.0+7.50			
掘削	礫交土	m <sup>2</sup>	2.4
	軟岩 IB	m <sup>2</sup>	0.0
盛土	発生土	m <sup>2</sup>	8.0
床掘	礫交土	m <sup>2</sup>	10.0
	軟岩 IB	m <sup>2</sup>	0.0
埋戻	発生土	m <sup>2</sup>	2.2



BC.1			
掘削	礫交土	m2	4.5
	軟岩 IB	m2	0.0
盛土	発生土	m2	34.9
床掘	礫交土	m2	15.5
	軟岩 IB	m2	0.0
埋戻	発生土	m2	0.8

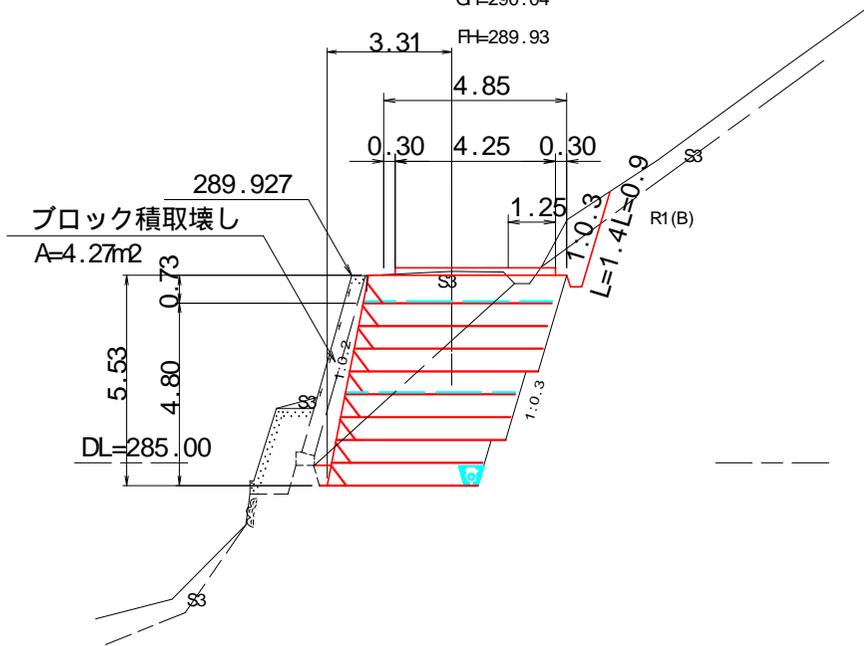


NO.0+15.00			
掘削	礫交土	m2	0.0
	軟岩 IB	m2	0.0
盛土	発生土	m2	39.2
床掘	礫交土	m2	0.0
	軟岩 IB	m2	10.9
埋戻	発生土	m2	0.0

### NO. 1

GH=290.04

FH=289.93

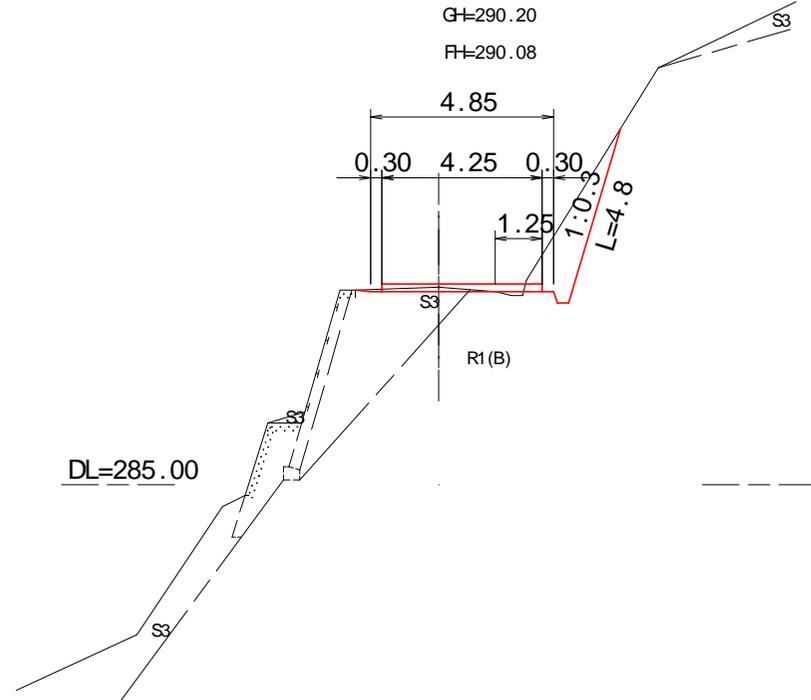


NO. 1			
掘削	礫交土	m2	1.0
	軟岩 IB	m2	1.0
盛土	発生土	m2	26.1
床掘	礫交土	m2	10.9
	軟岩 IB	m2	16.8
埋戻	発生土	m2	0.2

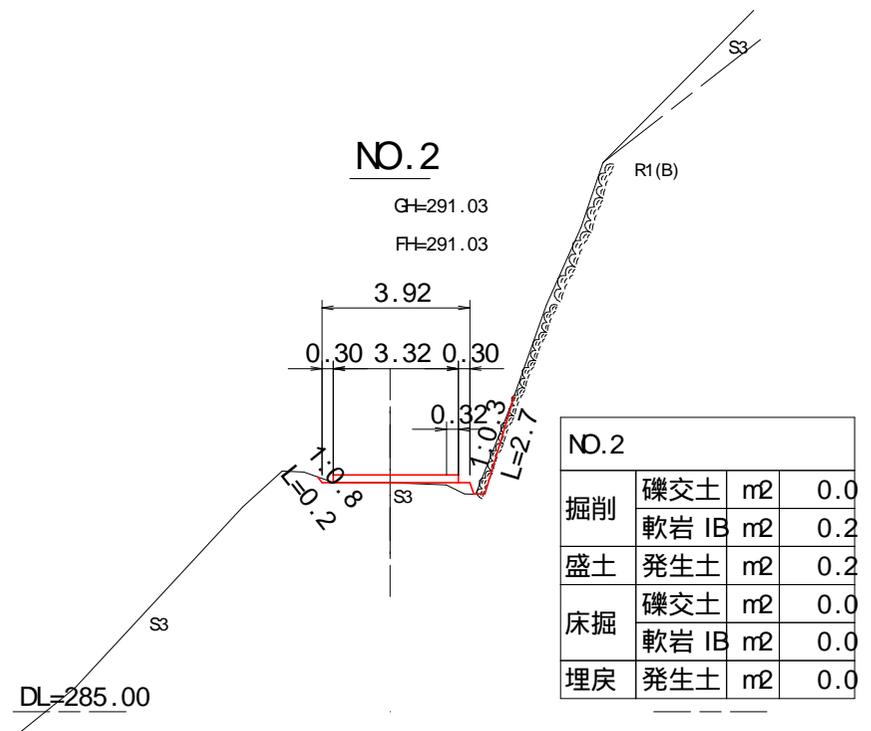
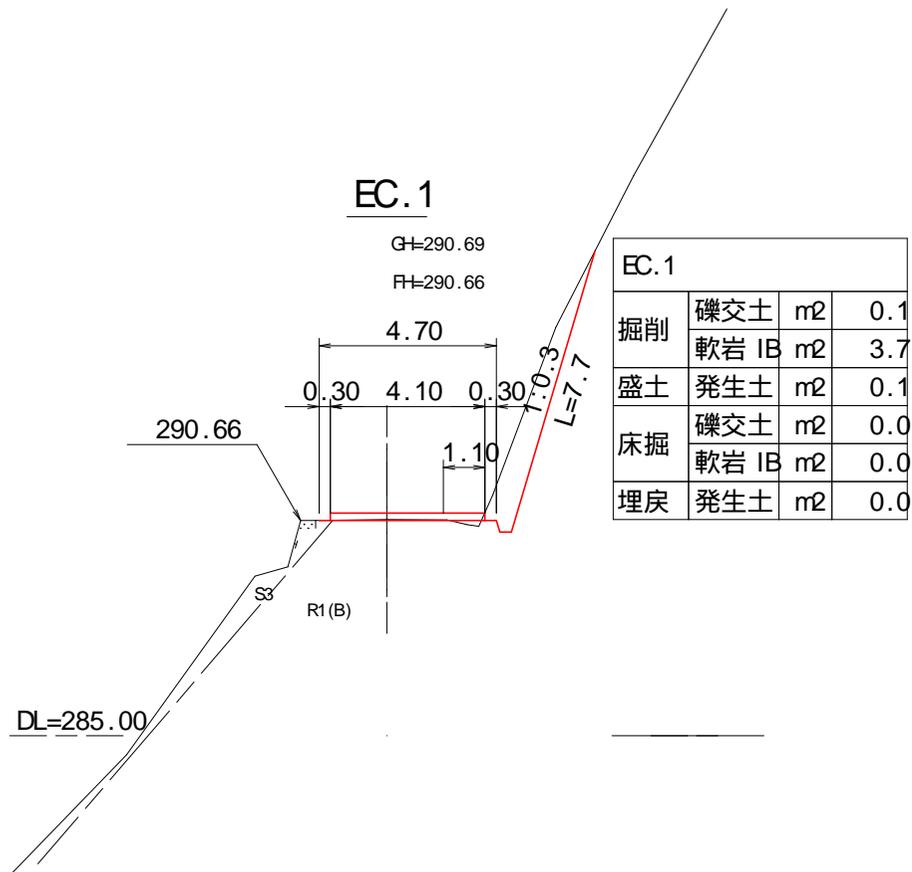
### MC. 1

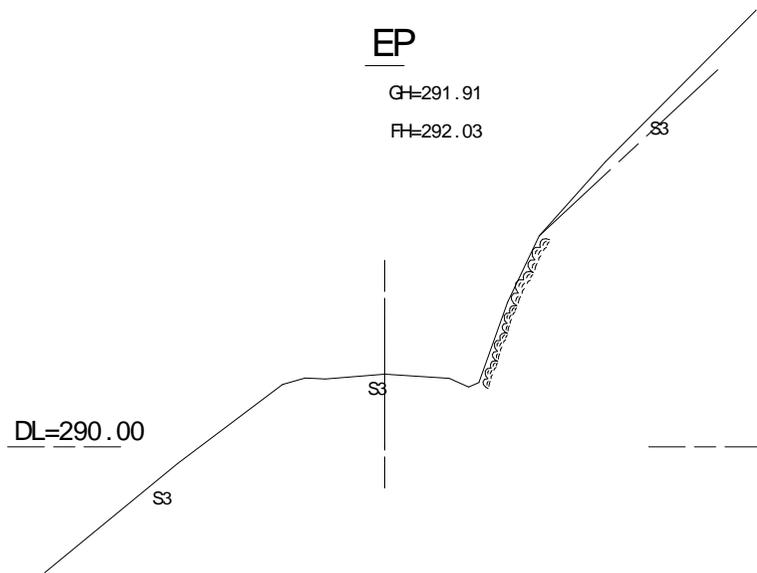
GH=290.20

FH=290.08



MC. 1			
掘削	礫交土	m2	0.2
	軟岩 IB	m2	2.9
盛土	発生土	m2	0.0
床掘	礫交土	m2	0.0
	軟岩 IB	m2	0.0
埋戻	発生土	m2	0.0

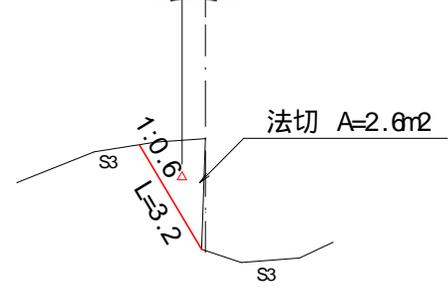




HNO2

G# 291.94  
F#

0.62

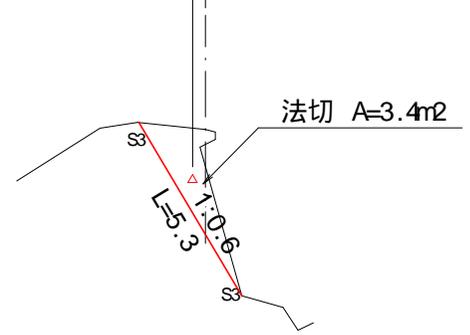


DL=290.00

HNO1

G# 292.05  
F#

0.34

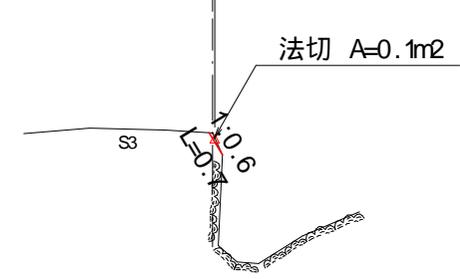


DL=290.00

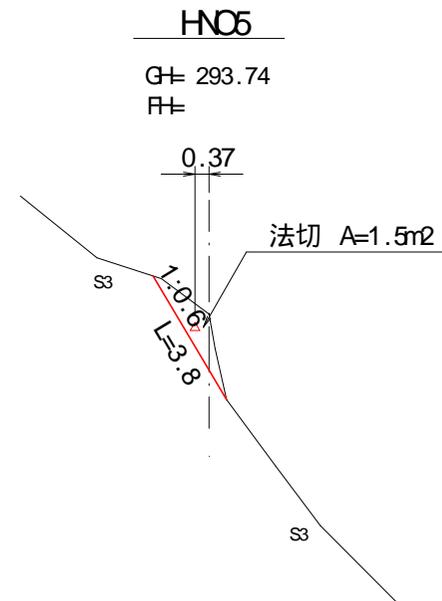
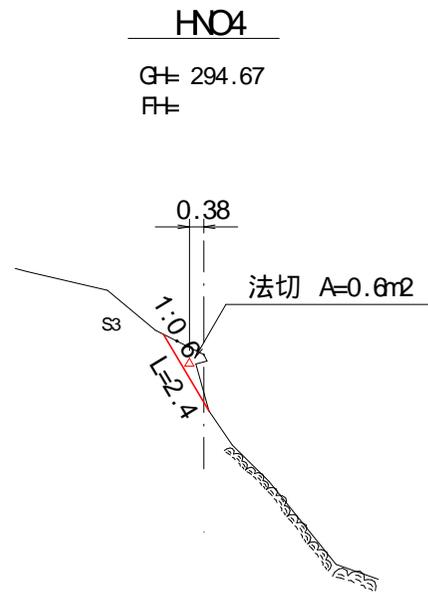
HNO3

G# 292.71  
F#

0.06



DL=290.00

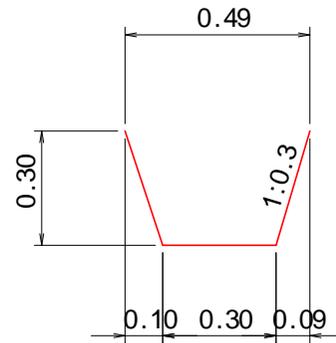
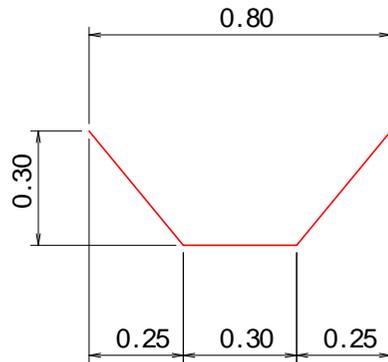


素掘側溝

S=1:20

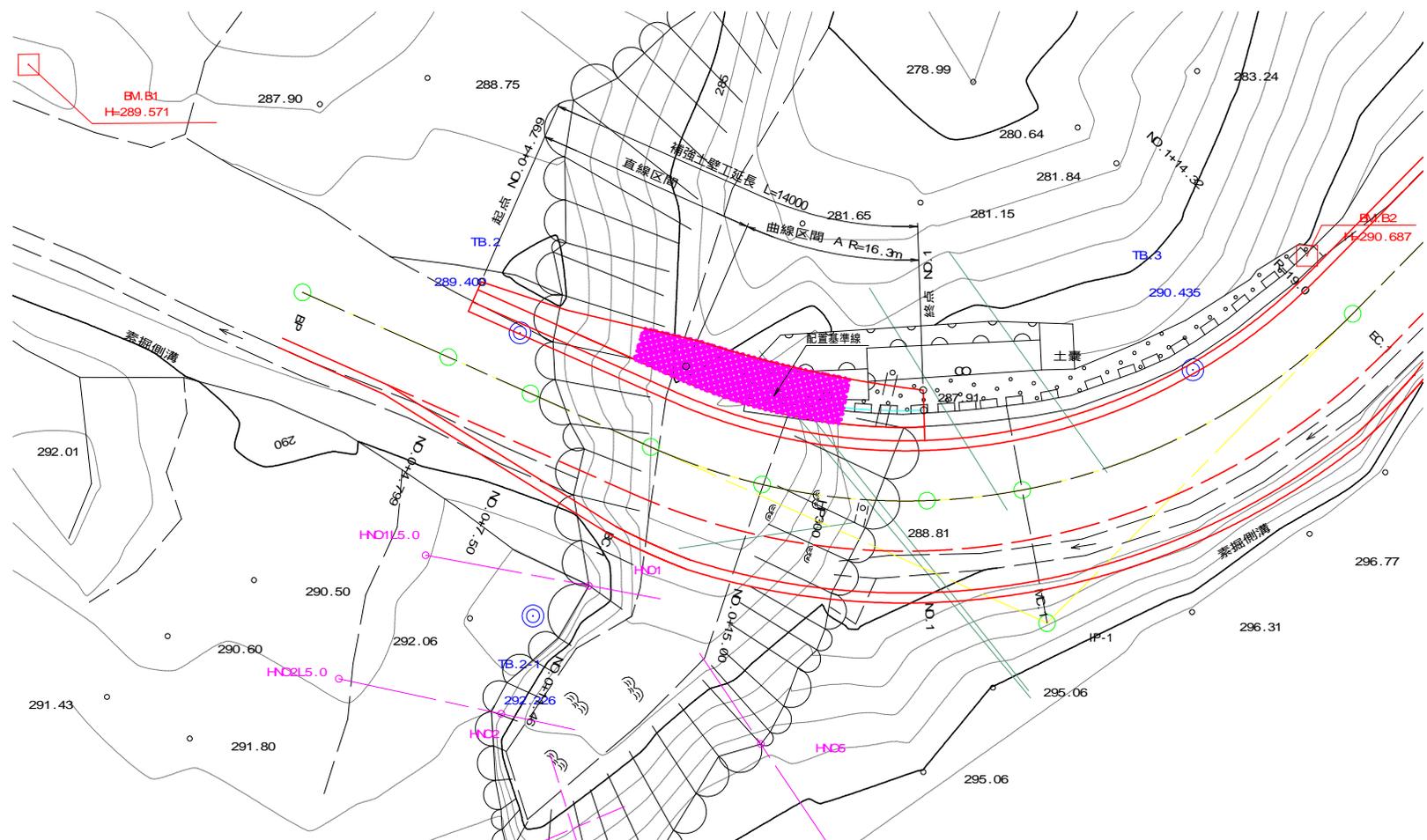
礫交土タイプ

軟岩IBタイプ



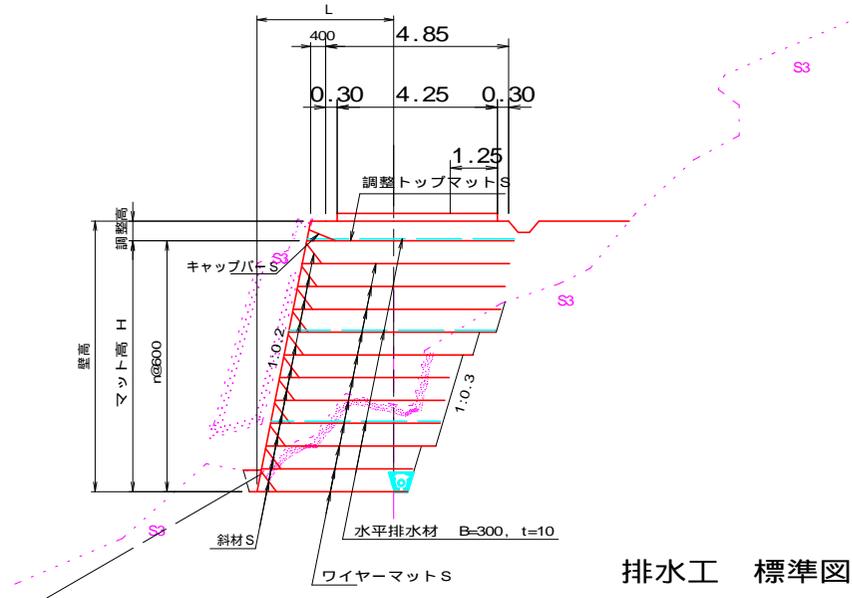


# 補強土壁工平面図 S=1/200



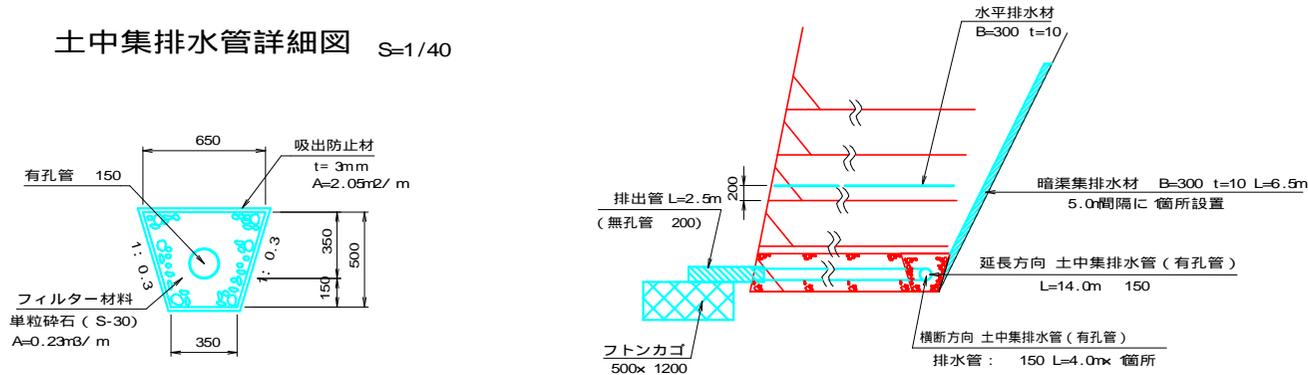
# 補強土壁工計画図

標準断面図 S=1/200



排水工 標準図 S=1/100

土中集排水管詳細図 S=1/40



## 設計条件

盛土材の単位体積重量	= 18 kN/m <sup>3</sup>		
盛土材の内部摩擦角	= 35°		
盛土材の粘着力	C= 0 kN/m <sup>2</sup>		
盛土材の粘着力 (全体安定計算時)	考慮しない		
活荷重	q L = 10 kN/m <sup>2</sup>		
雪荷重	考慮しない		
設計水平震度	内的	外的	全体安定
	k H = 0.13	k H = 0.09	k H = 0.09
擬似擁壁の外的安定	単位	常時	地震時
地盤反力	k N/m <sup>2</sup>	Q 1=183.980	Q 1=173.043
支持力の安全率	Fs	3.0	Fse 2.0
必要な極限支持力	k N/m <sup>2</sup>	q u =551.940	q u =346.086

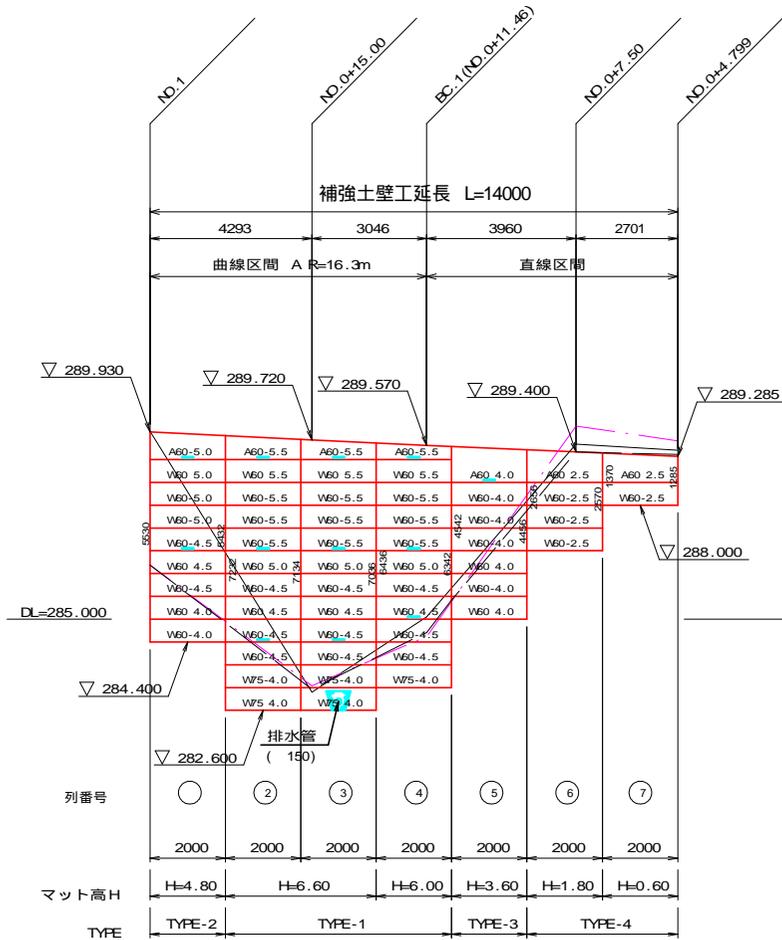
## 特記事項

- ・盛土材は以下に示す土質材料もしくは軟岩 I 級質材料を使用すること。  
(土質材料) : 細粒分の含有量が 25% 以下のもの。  
(軟岩 I 級質材料) : 最大粒径が 300mm 以下の硬軟岩 I 級質材料、もしくはスレーキング率 30% 以下の軟軟岩 I 級質材料、細粒分の含有量が 25% 以下のもの。
- ・掘削時に切土面からの湧水が著しく多い場合は、別途排水対策を追加すること。
- ・基礎地盤の極限支持力が、上記の必要な極限支持力以上であることを確認すること。
- ・補強材と壁面材は一体で接続部において 100% 強度を発揮するもの、または、これと同等以上と監督員が認めたものを使用すること。  
強度低下が見られるものは使用できない。

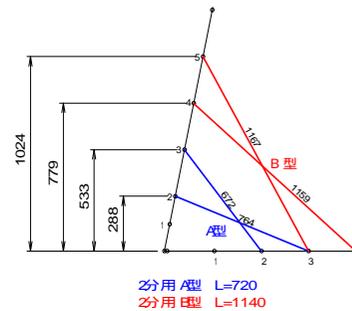
## 施工管理基準値

項目 (頻度)	
盛土材の締固め度 (盛土材 500mm <sup>2</sup> に 1 個)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J I S A 1 2 1 0 の A, B 法による最大乾燥密度の 95% 以上又は、C, D, E 法による 90% 以上とする。</li> <li>・ 細粒分含有量が多い場合 (20% 以上) で上記締固め度が得られない場合は、空気間隙率を 13% 以下とする。</li> <li>・ 軟岩 I 級質盛土材の場合は、工法規定方式で管理するものとする。</li> </ul>
完成後の壁面勾配	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ± 0.03 H および 30cm 以内。</li> <li>ここで H は壁高。</li> </ul>

# 補強土壁工展開図

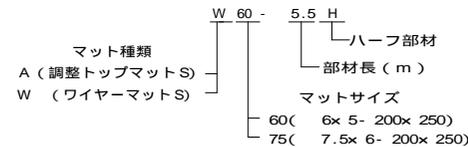


キャップバーS取付図 S=1/40

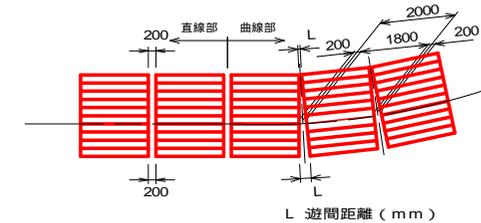


- <注意事項>
- ・キャップバーSは調整トップマットユニットに対して、  
A型3本、B型3本を使用し、調整高さが600mmより低い箇所には  
A型、高い箇所にはB型を設置する  
同様にハーフユニットに対しては、A型2本、B型2本を使用する
  - ・フックを掛ける交点の組み合わせは上図を参考にし、  
必ず縦筋と横筋の交点に掛ける

- 注：
- は、現況地盤線を表す。
  - は、埋戻し線を表す。
  - は、水平土被り1m線を表す。
  - は水平排水材 (B=300, t=10) を表す。
  - 展開図における補強材の省略記号は、以下の通りである。



遊間標準図



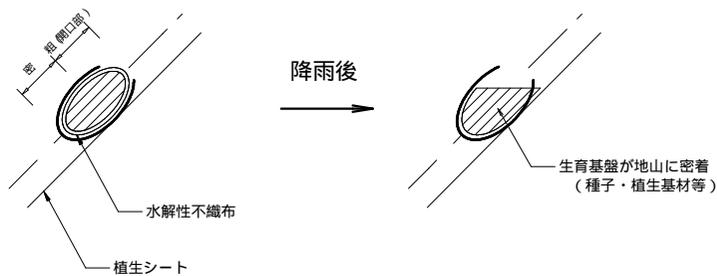
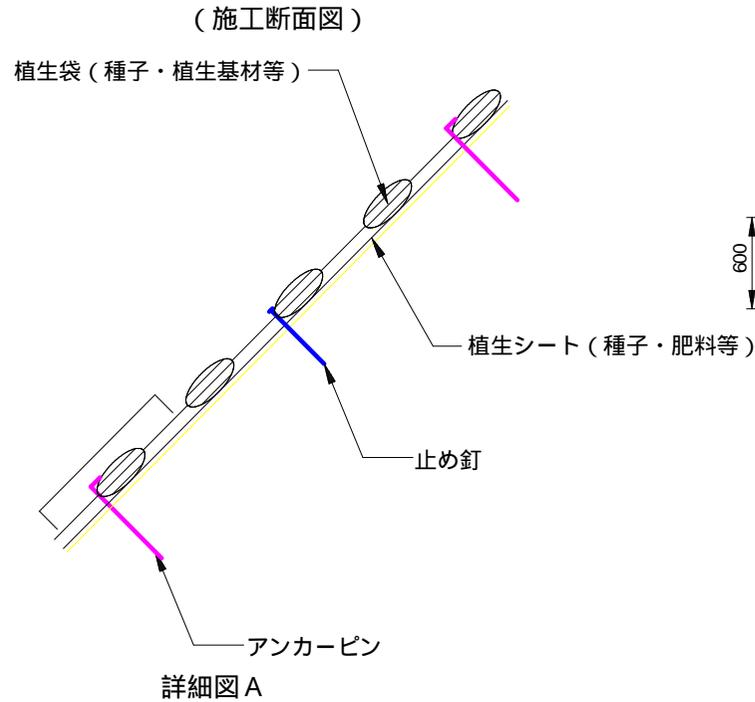
遊間表 曲線 A R= 16.3m DL=287.400m

曲線区間内の段数	遊間距離 ( L )	備考
1段目	244	
1段目	229	
1段目	215	
1段目	200	
1段目	185	
1段目	171	
1段目	156	
1段目	141	
1段目	126	
1段目	112	
1段目	97	
1段目	82	282.600

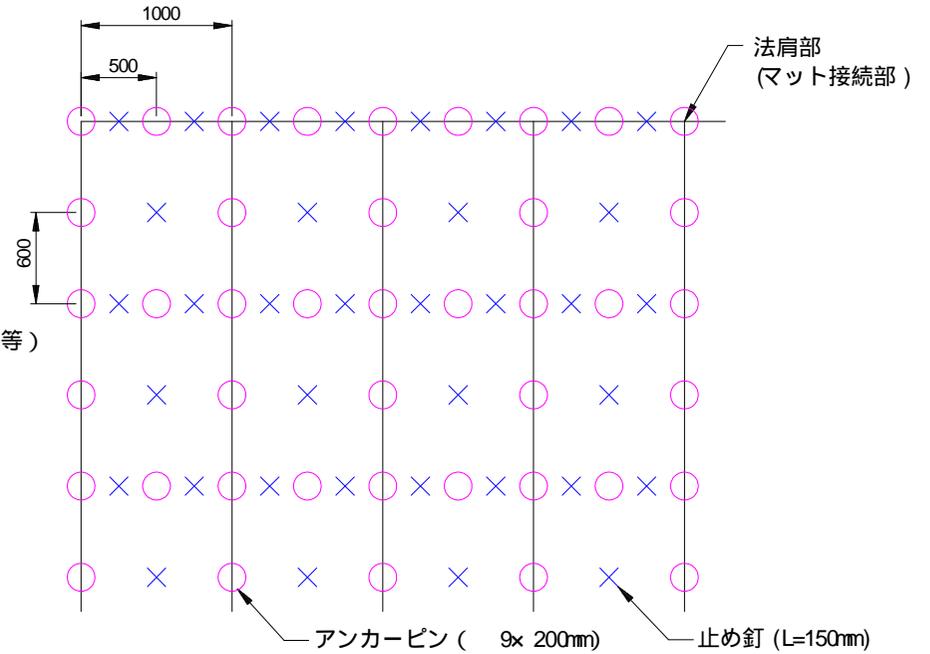
注：遊間距離 ( L ) は、勾配壁面で曲線部の場合における隣り合うマット同士を設置する際の離れ距離である。

## 植生マット 標準図

詳細図 A



(設置打設図)



(施工上の注意点)

マット接続部 (上下方向) は、法肩部の打設方法を参考に適宜固定具の増し打ちを行って下さい。

上図はアンカーピン等の打設本数を算出するための模式図です。  
法面の凹凸や地質の状況に応じて、打設ピッチは変わることがあります。

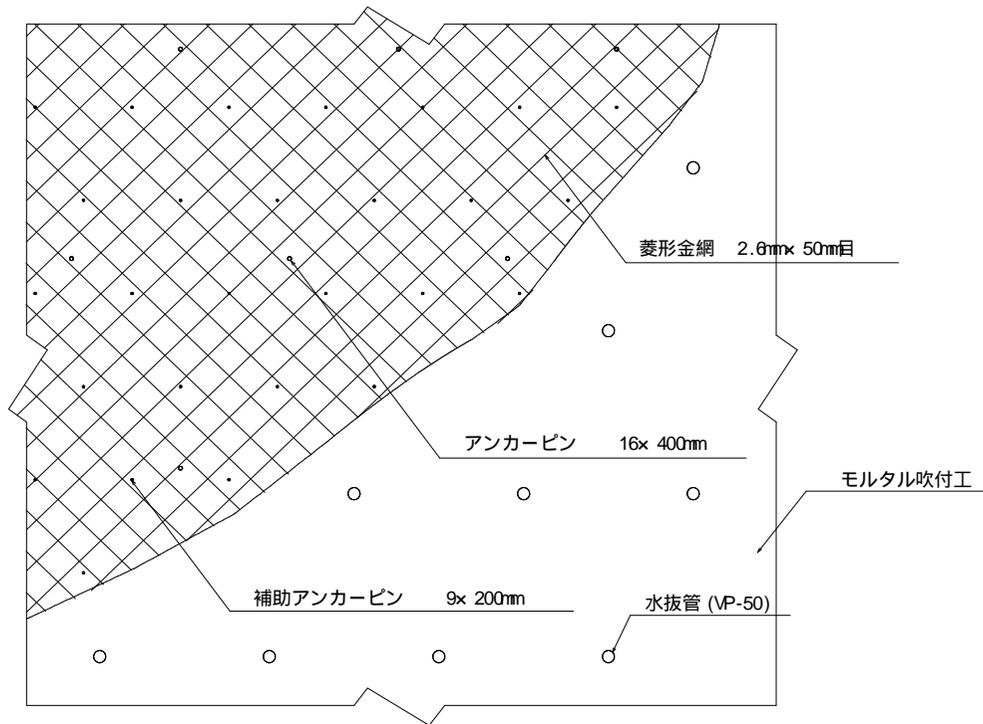
数量表

100㎡当たり

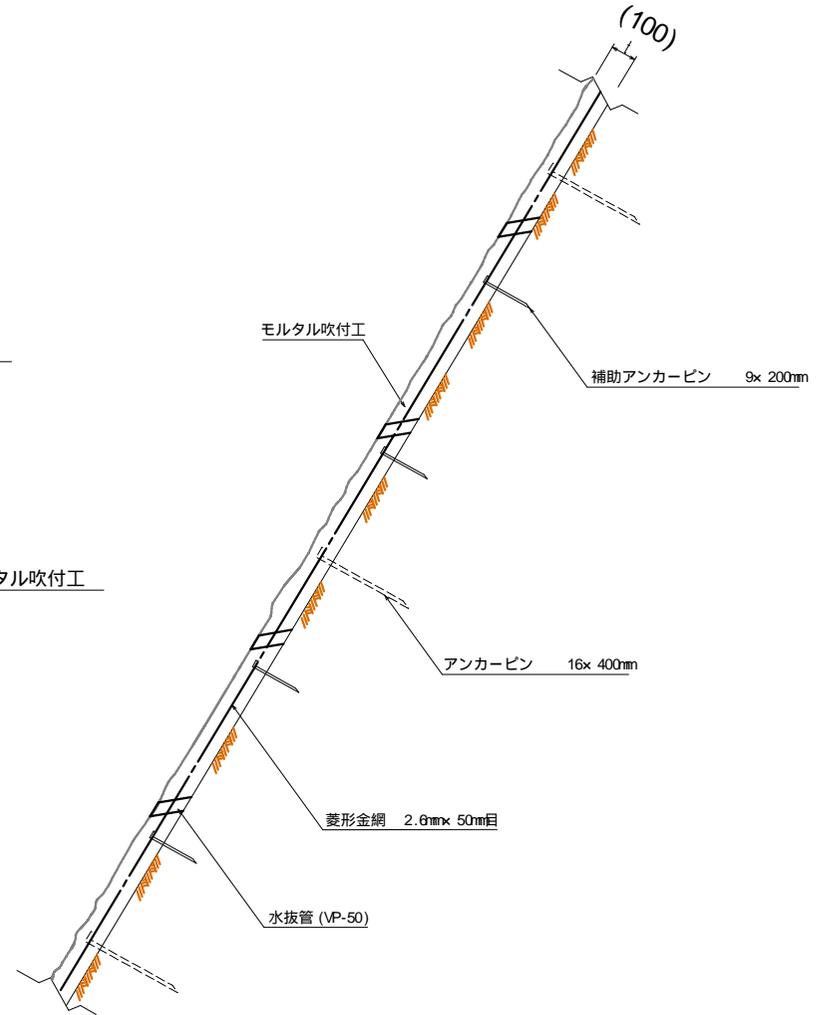
名称	規格	単位	数量	備考
植生マット	植生基材厚 3cm相当 1 m × 1.0 m	㎡	120	ロス率 1.2
アンカーピン	9x 200mm	本	277	
止め釘	大頭釘, L=150mm	"	260	

# モルタル吹付工詳細図

## 正面図



## 標準断面図



# 土工標準図

